

# Surgeries and simple loops on a solid torus of genus $g$

筑波大数学系 金産 武司

## 1. 序

この報告は,  $S^3$  の Heegaard diagrams による基本群の表示に関する筆者の一連の仕事 [5], [6], [7], [8] の最初の動機となった問題「 $S^3$  の genus 2 Heegaard diagrams による基本群の表示は, cyclic reduction と substitution により, 自明なもの  $\langle a_1, a_2 : a_1, a_2 \rangle$  に変形できるか?」の肯定的解決を与える。その証明は, surgery の手法と“fake Heegaard diagram の概念”に基づく。この idea の応用として, 与えられた Heegaard diagram (of genus  $g$  for a 3-manifold) を pseudo-minimal なものに変形する algorithm の存在定理 ([15], [3]) の簡単な別証を与える。

idea の本質が明らかになるよう, 以下では, 実際に

得られた順序とは逆の順序で述べることにする。

## 2. 結果

$T$  を genus  $g$  の solid torus (i.e. 3-ball with  $g$  1-handles),  $\partial T$  をその境界とする。  $\mathcal{M} = \{m_1, \dots, m_g\}$  を oriented meridian disks of  $T$  の complete system (i.e.  $T$  を  $\mathcal{M}$  で切り開くと 3-ball, 又 "system" は mutually disjoint set の意.) とする。  $\partial T$  上の simple loop  $l$  が normal to  $\mathcal{M}$  とは, 交わり  $l \cap \mathcal{M} (= l \cap (m_1 \cup \dots \cup m_g))$  は transversal で,  $\partial T$  の isotopy で除けるものを含まないことをいう。各  $m_i \in \mathcal{M}$  ( $i=1, \dots, g$ ) に文字  $a_i$  によるラベルを付け,  $l$  に沿って交点  $l \cap \mathcal{M}$  を読みとることによって得られる cyclic word を  $W(l, \mathcal{M})$  で表わす。 cyclic permutation と inversion の違いを無視すれば,  $W(l, \mathcal{M})$  は一意的である。以後, cyclic word  $W_1, W_2$  がこれらの違いを無視して等しいとき,  $W_1 \equiv W_2$  と表わすことにする。 cyclic word が cyclicに cancell する部分  $a_i a_i^{-1}$  or  $a_i^{-1} a_i$  (or  $a_i \dots a_i^{-1}, a_i^{-1} \dots a_i$ ) を含むとき, これを除く操作を cyclic reduction

という。もはや, *cyclic reduction* が適用できな  
 とき, *cyclically reduced* という。

定理 1. (*Geometric reduction*)

simple loop  $l$  は normal to  $\mathcal{M}$  とする。

$W(l, \mathcal{M})$  が not cyclically reduced ならば,  
 oriented proper disks of  $T$  の system  
 $\hat{\mathcal{M}} = \{\hat{m}_1, \dots, \hat{m}_k\}$  ( $k \geq g$ ) で 次の性質 (\*) を  
 もつものを見つける algorithm が存在する:

(\*) 0)  $l$  は normal to  $\hat{\mathcal{M}}$ ,

1) どの  $\hat{m}_i$  ( $i=1, \dots, k$ ) も文字  $a_1, \dots, a_g$  の  
 どれか一つによりラベルがつけられてい  
 る,

2)  $\hat{\mathcal{M}}$  はその sub-system として meri-  
 dian disks of  $T$  の complete system  
 $\mathcal{M}_0 = \{\hat{m}_{i_1}, \dots, \hat{m}_{i_g}\}$  で, 各  $\hat{m}_{i_j}$  が  
 文字  $a_j$  ( $j=1, \dots, g$ ) をラベルにもつ  
 ものを含む,

3)  $W(l, \hat{\mathcal{M}}) \equiv \tilde{W}(l, \mathcal{M})$ , ニド,  
 $\sim$  は cyclically reduced form の意.

注. 2-disk  $m (\subset T)$  が proper とは  $m \cap \partial T = \partial m$  の意.  $T - m$  が connected ならば, meridian disk である.

Zieschang [15] は, Whitehead [14] の結果を用いて, 次の定理を示した. これは与えられた Heegaard diagram を pseudominimal (cf. [3]) なものに変形する algorithm の存在定理を含む. 定理 1 により, 自然でより簡単な別証をうる.

系 1. (Whitehead-Zieschang)

$\partial T$  上の simple loops の任意の system  $L = \{l_1, \dots, l_n\}$  に対し, meridian disks of  $T$  の complete system  $M$  で  $L$  との総交点数が最小となるものを見つける algorithm が存在する.

以下,  $S^3$  の genus 2 Heegaard diagrams による基本群の表示について考察する.

定義. (substitution) 群表示  $\langle a_1, a_2; r_1, r_2 \rangle$  において, 一方の relator が他方の relator に sub-

word として (cyclically に) 含まれるとき, その sub-word を除くことにより, relators の長さがより短かい表示  $\langle a_1, a_2; r_1', r_2' \rangle$  が得られる。この変形を substitution といい, 「 $\rightarrow$ 」と書く。即ち,

$$\{r_1, r_2\} \equiv \{r_1' r_2', r_2'\} \text{ のとき, } \langle a_1, a_2; r_1, r_2 \rangle \rightarrow \langle a_1, a_2; r_1', r_2' \rangle .$$

定理 2.  $D$  を任意の  $S^3$  の genus 2 Heegaard diagram,  $\pi(D) = \langle a_1, a_2; r_1, r_2 \rangle$  を  $D$  に於ける基本群の表示とする。今, cyclically reduced form  $\tilde{\pi}(D) = \langle a_1, a_2; \tilde{r}_1, \tilde{r}_2 \rangle$  が non trivial (i.e.  $\neq \langle a_1, a_2; a_1, a_2 \rangle$ ) ならば, substitution  $\tilde{\pi}(D) \rightarrow \langle a_1, a_2; r_1', r_2' \rangle$  でその cyclically reduced form  $\langle a_1, a_2; \tilde{r}_1', \tilde{r}_2' \rangle$  が再びある  $S^3$  の genus 2 Heegaard diagram  $D'$  に於ける cyclically reduced な表示  $\tilde{\pi}(D')$  になつてゐるものが存在する。

この系として, 序で述べた問題 (cf. [5], [7]) の肯定的解決をうる。

系 2.  $S^3$  の任意の genus 2 Heegaard diagram

による基本群の表示は *cyclic reduction* と *substitution* により *trivial* な表示  $\langle a_1, a_2; a_1, a_2 \rangle$  に変形できる。

注. Thurston 達によって, *genus 2 Poincaré conjecture* が肯定的に解決されたので, 上の系は次のような決定問題の純代数的な解決を含む:

- i) 与えられた 3-manifold with genus 2 Heegaard splitting の基本群が *trivial* か否かの判定,
- ii) 同じく上の 3-manifold が  $S^3$  と同相か否かの判定,
- iii) 与えられた 3-bridge 表現をもつ knot が *trivial* か否かの判定.

### 3. 証明

#### 1) 定理 1 の証明

$\alpha$  を  $l$  の sub-arc で  $W(l, \mathcal{M})$  の一つの *cyclically cancellable part*  $a_i a_i^{-1}$  or  $a_i^{-1} a_i$  に対応するものとする。  $\partial m_i$  を  $\alpha$  に沿って surgery すると, 二本の *oriented simple loops* で,

それぞれ  $T$  の proper disks  $m_i'$ ,  $m_i''$  を bound するものが得られる。 $\mathcal{M}$  において,  $m_i$  に代えて,  $m_i'$  と  $m_i''$  を加えて, 新しい system  $\hat{\mathcal{M}}_1$  をうる。 $m_i'$  と  $m_i''$  に同じ文字  $a_i$  をラベルに付けると,  $\hat{\mathcal{M}}_1$  は条件 1), 2) を満たす。もし,  $W(\mathcal{L}, \mathcal{M}_0)$  が not cyclically reduced ならば, 同様の手法で新しい system  $\hat{\mathcal{M}}_2$  をうる。この場合, surgery によって二枚の proper disks  $m_i', m_i''$  が一枚の proper disk  $m_i''' (= m_i' \# m_i'', \#$ : band sum along  $\alpha$ ) になることもあり得るが,  $\hat{\mathcal{M}}_2$  も又, 1), 2) を満たす。(2) について, surgery によって生ずる simple loops は一つ手前の complete system  $\mathcal{M}_0$  で  $T$  を切り開いて考えると, 3-ball の境界上にあるから,  $T$  での proper disk(s) を bound する。又,  $\partial \hat{\mathcal{M}}_2$  の各 simple loops を  $H_1(\partial T)$  の元とみたとき, surgery は homology class を変えないから, 同じ文字  $a_i$  ( $i=1, \dots, g$ ) をラベルにもつ loops の総和は  $\partial m_i$  と同じ homology class  $[\partial m_i]$  を表わし,  $\{[\partial m_1], \dots, [\partial m_g]\}$  は  $H_1(\partial T)$  で一次独立だから,  $\mathbb{Z}$ -加群の基

底変換の議論により,  $\partial M_2$  の sub-system  $\partial M_0$  で各文字を一度ずつラベルにもつ  $g$  個の loops からなり, それらが  $H_1(\partial T)$  で一次独立と存在ものが存在する。よって,  $M_0$  が求める  $T$  の meridian disks の complete system である。) 以下, この process を (P回) 繰り返し,  $W(l, M_P)$  が cyclically reduced になるまで行えば,  $M_P$  が求める  $\hat{M}$  である。

## 2) 系 1 の証明

Whitehead algorithm [14] (cf [3], [15]) により, oriented meridian disks of  $T$  の complete system  $M'$  で,

(a)  $L$  は normal to  $M'$ ,

(b) cyclically reduced words  $\tilde{W}(l_1, M')$

$\dots, \tilde{W}(l_n, M')$  の長さの総和が最小

となるため, 任意の complete system  $M''$  に対し,

$$\sum_{i=1}^n L(\tilde{W}(l_i, M')) \leq \sum_{i=1}^n L(\tilde{W}(l_i, M'')),$$

を満すものを見つけ出せる。定理 1 を  $l_i$  と  $M'$  に適用

して, oriented proper disks of  $T$  の system  $\hat{M}_i$

で, 1), 2) 及び  $\tilde{W}(l_i, M') \equiv W(l_i, \hat{M}_i)$  が



$W(l_i, \mathcal{M}') = W(l_i, \hat{\mathcal{M}}_1)$  ( $i=2, \dots, n$ ) を満たすものをうる。ここで、定理 1 は  $\mathcal{M}$  を  $\hat{\mathcal{M}}_1$  に代えても成り立つ (実際、 $H_1(\partial T)$  の元として、同じ文字  $a_i$  ( $i=1, \dots, g$ ) の  $\partial \mathcal{M}$  の loops の総和が 1 次独立であれば良い。) ことに注意すれば、 $l_2$  と  $\hat{\mathcal{M}}_1$  に対しても同様に適用でき、system  $\hat{\mathcal{M}}_2$  で、1), 2) 及び  $\hat{W}(l_i, \mathcal{M}') \equiv W(l_i, \hat{\mathcal{M}}_2)$ ,  $\hat{W}(l_2, \mathcal{M}') \equiv W(l_2, \hat{\mathcal{M}}_2)$  から  $W(l_i, \mathcal{M}') = W(l_i, \hat{\mathcal{M}}_2)$  ( $i=3, \dots, n$ ) を満たすものをうる。以下、同様にこの process を合計  $n$  回繰り返して、system  $\hat{\mathcal{M}}_n$  で、1), 2) 及び  $\hat{W}(l_i, \mathcal{M}') \equiv W(l_i, \hat{\mathcal{M}}_n)$  ( $i=1, \dots, n$ ) を満たすものをうる。ここで、性質 2) による  $\hat{\mathcal{M}}_n$  の complete subsystem を  $\mathcal{M}_0$  とすると、

$$\begin{aligned}
 & \sum_{i=1}^n L(\hat{W}(l_i, \mathcal{M}')) \quad (= \sum_{i=1}^n L(W(l_i, \hat{\mathcal{M}}_n))) \\
 & \geq \sum_{i=1}^n L(W(l_i, \mathcal{M}_0))
 \end{aligned}$$

が成り立つが、 $\mathcal{M}'$  は性質 (c) を満たすことから、 $\hat{W}(l_i, \mathcal{M}') (= W(l_i, \hat{\mathcal{M}}_n)) = W(l_i, \mathcal{M}_0)$  でなければならぬ。すなわち、この  $\mathcal{M}_0$  が求める  $\mathcal{M}$  である。

## 3) 定理2の証明

## [1]. 準備的補題及び命題

cyclically reduced な表示  $\tilde{\pi}(D) = \langle a_1, a_2; \hat{\tau}_1, \hat{\tau}_2 \rangle$  を幾何的に実現するため, "fake Heegaard diagram" の概念を次のように定義する:

定義.  $\mathcal{C}$  を  $\partial T$  (of genus 2) 上の simple loops の complete system,  $\mathcal{P}$  を 2 つの文字  $a_1, a_2$  のいずれかをそれぞれラベルに持つ  $\partial T$  上の oriented simple loops の system (必ずしも complete ではない.) とする. このとき,  $(\partial T; \mathcal{P}, \mathcal{C})$  を (oriented) fake Heegaard diagram (略して, F-diagram) といい,  $F = (\partial T; \mathcal{P}, \mathcal{C})$  (略して,  $F$  または  $(\partial T; \mathcal{P}, \mathcal{C})$ ) と書く。

以下, F-diagram  $F$  として normal なもののみを考えることにする.  $F$  に対して, Heegaard diagram の場合と同様にして, 群表示  $\pi(F) = \langle a_1, a_2; \tau_1, \tau_2 \rangle$  をうき. その cyclically reduced form を同じく,  $\tilde{\pi}(F) (= \langle a_1, a_2; \hat{\tau}_1, \hat{\tau}_2 \rangle)$  と書くことにする。

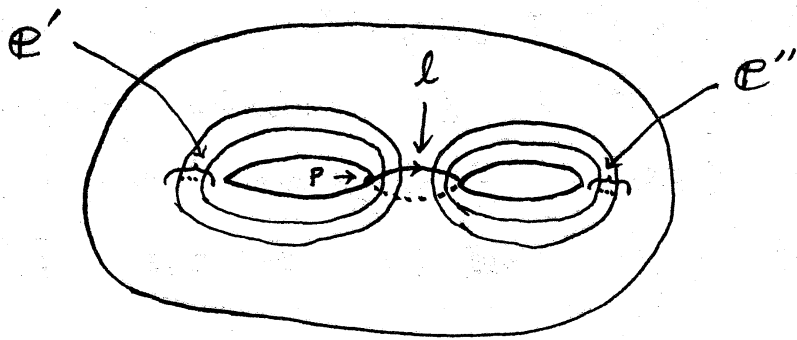
補題. F-diagram  $F = (\partial T; \mathcal{P}, \mathcal{C})$  は次 (\*) を満たすものとする:

(\*) (1)  $\pi(F) = \langle a_1, a_2; r_1, r_2 \rangle$  は *not cyclically reduced*,

(2)  $\pi(F)$  の アーベル化群 は 0,

(3)  $\mathcal{E} = \mathcal{E}' \cup \mathcal{E}''$  ( $\mathcal{E}' \cap \mathcal{E}'' = \emptyset$ ) は次を  
満たす:

a)  $\mathcal{E}'$ ,  $\mathcal{E}''$  は それぞれ *parallel* な  
*simple loops* からなり, 下図のよう  
ある。



$\partial T$

Fig. 1

b)  $P$  を基点とする  $\partial T$  上の *oriented simple loop*  $l$  を上図のようにとるとき,

$$W(l, \mathcal{E}) = W_1 W_2 \quad (=: \text{, } W_1 = W(l, \mathcal{E}'), W_2 = W(l, \mathcal{E}''))$$

i)  $W_1 = A$ ,  $W_2 = AB$ ,  $=: \text{ } A, B$  は *words*,

ii)  $AB, A, B$  は それぞれ *cyclically reduced*,

を満す。

このとき、 $\mathbb{C}$  のある loop  $C$  の sub-arc  $\alpha_i$  ( $i=1, \dots, k$ ,  $\alpha_1 \subset \alpha_2 \subset \dots \subset \alpha_k$ ) で次を満すものが存在する:

$\alpha_i$  に沿った surgeries  $S(\alpha_i): \mathbb{C} \xrightarrow{S(\alpha_1)} \mathbb{C}_1 \xrightarrow{S(\alpha_2)} \dots \xrightarrow{S(\alpha_k)} \mathbb{C}_k$  において、 $\mathbb{C}_k$  は次を満す: ある

向きを保つ homeomorphism  $f: \partial T \rightarrow \partial T$  に対し、

(A)  $f\mathbb{C}_k = \mathbb{C}'_k \cup \mathbb{C}''_k$  ( $\mathbb{C}'_k \cap \mathbb{C}''_k = \emptyset$ ) は

前条件 (3) の a) を満す,

(B)  $W(l, f\mathbb{C}_k) = W_1 W_2$  ( $=1$ ,  $W_1 = W(l, \mathbb{C}'_k)$ ,  $W_2 = W(l, \mathbb{C}''_k)$ ) は,

Type I:  $W_1 = A$  か  $W_2 = B$ ,

又は,

Type II: (i)  $W_1 = A$  か  $W_2 = A(AB)$ ,

又は, (ii)  $W_1 = B^{-1}A^{-1}$  か  $W_2 = (B^{-1}A^{-1})A^{-1}$ ,

を満す。

証明.  $\partial T$  を standard longitudes  $l_1, l_2$  (cf. 下図) に沿って切り開くと, 下図のようにな-punctured 2-sphere をうる。

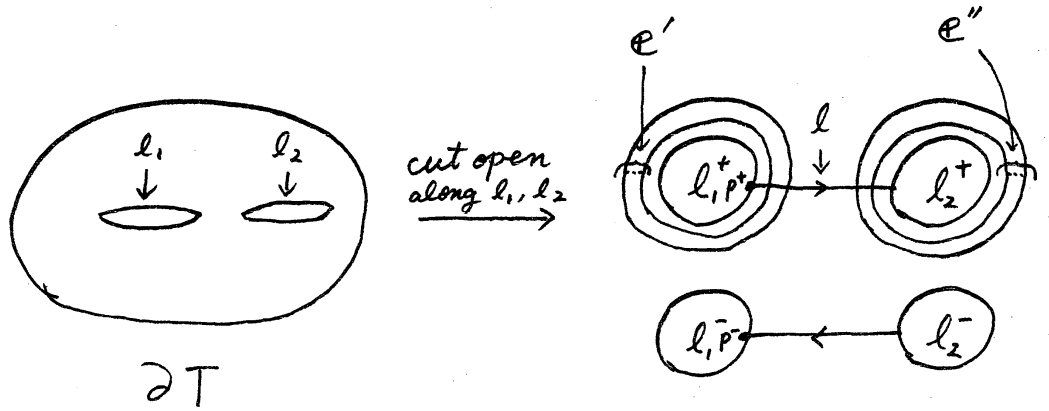


Fig. 2

条件(U)より,  $\Gamma_1$  と  $\Gamma_2$  は *cyclically reduced part* をもつ。以下, これに対する  $\mathbb{C}$  の loop の sub-arc の在り方を手掛りに場合に分けて考える。

(I) Fig. 2 において,  $\mathbb{C}$  のある loop  $C$  の sub-arc  $\alpha$  で,  $l_1^-$  と  $l_2^+$  を結ぶものが存在する場合。  $\alpha$  を  $C$  に沿って  $l_1^+$  の方に延長して, sub-arc  $\tilde{\alpha}$  (cf. 下図) で,  $W(\tilde{\alpha}, \mathbb{C}) \equiv A^{-1}AB$  とできる。

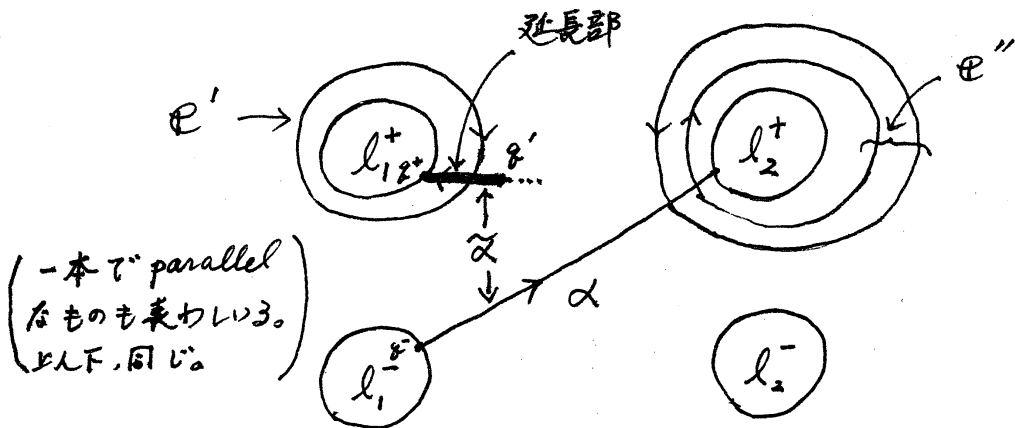
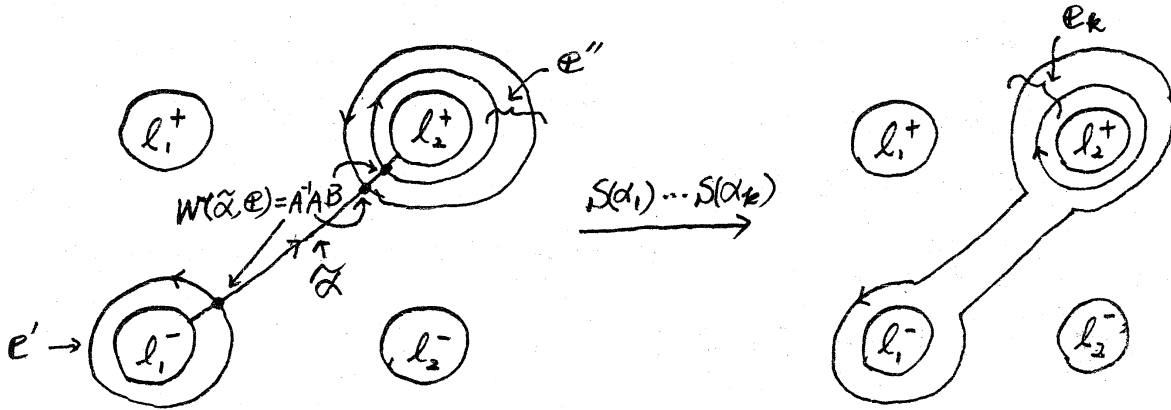


Fig. 3

この  $A^{-1}A$  の cancells を  $\tilde{\alpha}$  の sub-arcs  $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_k$  に沿った surgeries で実現すれば, (A), (B) Type I を満たすことは容易にわかる。(cf. F図)



isotopic to Fig. 3

Fig. 3'

Fig. 4

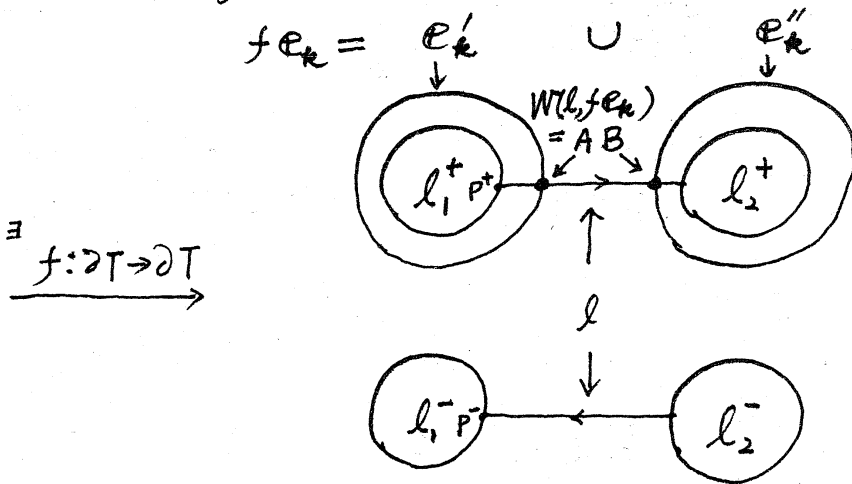


Fig. 4'

(II) (I) ような  $l_1^-$  と  $l_2^+$  を結ぶ  $\mathbb{C}$  の sub-arc が存在しない場合. genus 2 Heegaard diagram (この場合は,  $(\partial T; \{l_1, l_2\}, \mathbb{C})$ ) の 2-symmetry 性 (cf. [2], [12]) より,  $l_1^+$  と  $l_2^-$  を結ぶ  $\mathbb{C}$  の sub-arc も存在しない. 4-punctured 2-sphere 上の graph の分類結果 (cf. [4], [12]) より,  $l_1, l_2$  を fixed する  $\partial T$  上の向きを保つ homeomorphism の違いを無視すれば,  $F$  は下図のタイプになる.

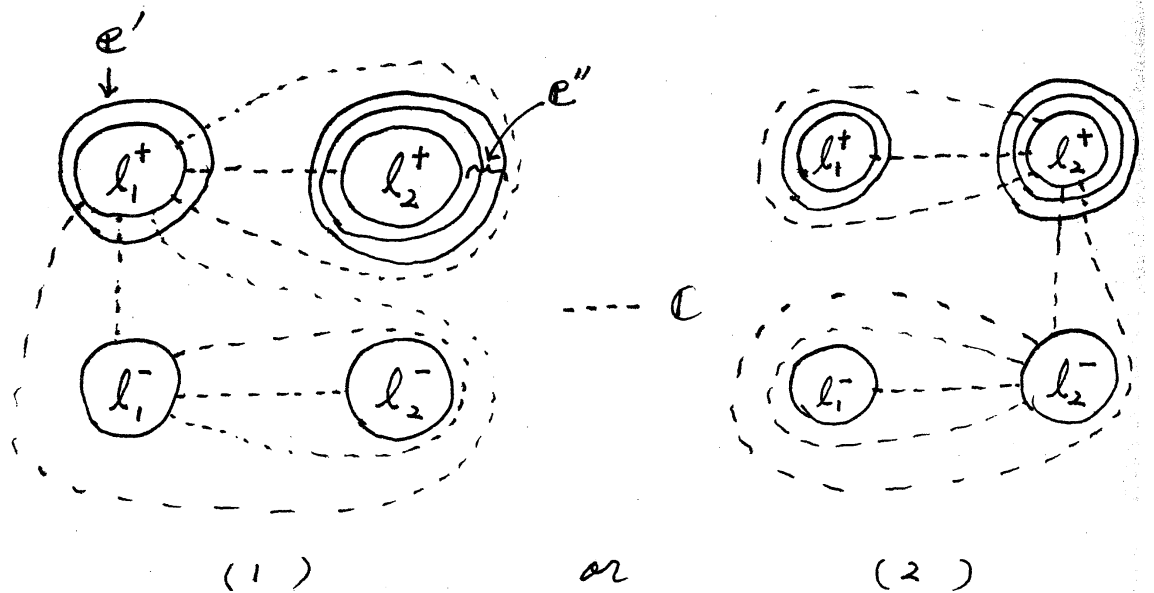
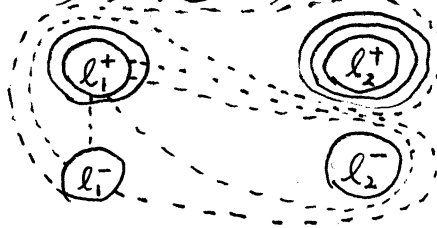


Fig. 5

(条件(2)より, 次のタイプは生じない.)



このとき,  $l_1^+$  (or  $l_2^+$ ) 上に両端点をもつ  $\mathbb{C}$  の loop  $C$  の sub-arc  $\alpha$  について,  $W(\alpha, \mathbb{E}) = A\bar{A}^{-1}$  or  $AB(B^{-1}A^{-1})$  であるから, これらの cancell に対応する  $\alpha$  の sub-arcs  $\alpha_1 < \alpha_2 < \dots < \alpha_k$  に沿った surgeries により, 得られた  $\mathbb{E}_k$  は, (A), (B) Type II を満たすことは, (I) と同様に確かめられる。

この補題から, 少し一般的な次の命題が導かれる。

**命題.**  $D = (\partial T; \mathbb{C}_1, \mathbb{C}_2)$  を homology sphere の oriented genus 2 Heegaard diagram とする。このとき,  $\mathbb{C}_2$  の loops の sub-arc に沿った  $\mathbb{C}_1$  の surgeries により, 得られた F-diagram  $F = (\partial T; \mathbb{E}, \mathbb{C}_2)$  による表示  $\pi(F)$  が cyclically reduced であるようにできる。更に, surgeries を適当に選べば, ある向きを保つ homeomorphism  $f: \partial T \rightarrow \partial T$  に対し,

i)  $hF = (\partial T; h\mathbb{E}, h\mathbb{C}_2)$  が前補題の条件 (2), (3) を満たすか, 又は



ii)  $\mathcal{A}F = (\partial T; \{l_1, l_2\}, \mathcal{A}C_2)$  である  
 ようにできる。

証明.  $C_1$  は それぞれ,  $l_1, l_2$  に isotopic  
 な二本の oriented loops からなるとしてよい。(必  
 要なら,  $D$  に代えて,  $fD$  を考えればよい。ニニに,  
 $f$  は向きを保つ  $\partial T$  上の homeomorphism で,  $fC_1 = \{l_1^+, l_2^+\}$  )  
 もし,  $\pi(D)$  が cyclically reduced  
 なら, 何もしなくても, ii) が成り立つ。  $\pi(D)$  が  
 not cyclically reduced な場合について考える。  
 このとき,  $C_1$  に 補題の Type II の surgery  
 を行うことができる。実際, up to orientation pre-  
 serving homeomorphism on  $\partial T$  で,  $D$  は下  
 図のタイプである。( Fig. 3 の (2) に相当するものも  
 同様に扱えるので省いた。)

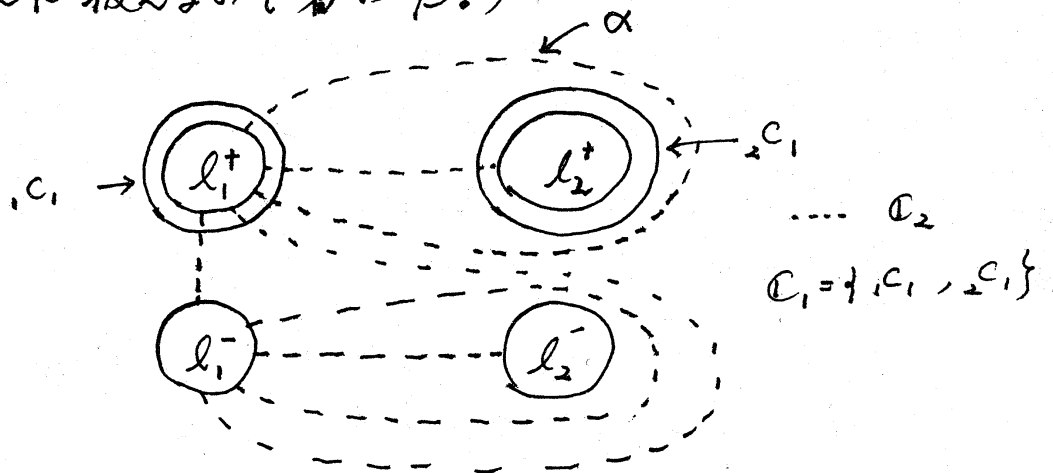


Fig. 6

従って,  $l_1^+$  に両端点をもつ  $C_2$  の loop の sub-arc  $\alpha$  に沿った surgery で,  $C_1$  は  $\mathcal{E}_1$  に変形され, 向きを保つ homeomorphism  $h_1: \partial T \rightarrow \partial T$  により下図のようになる。

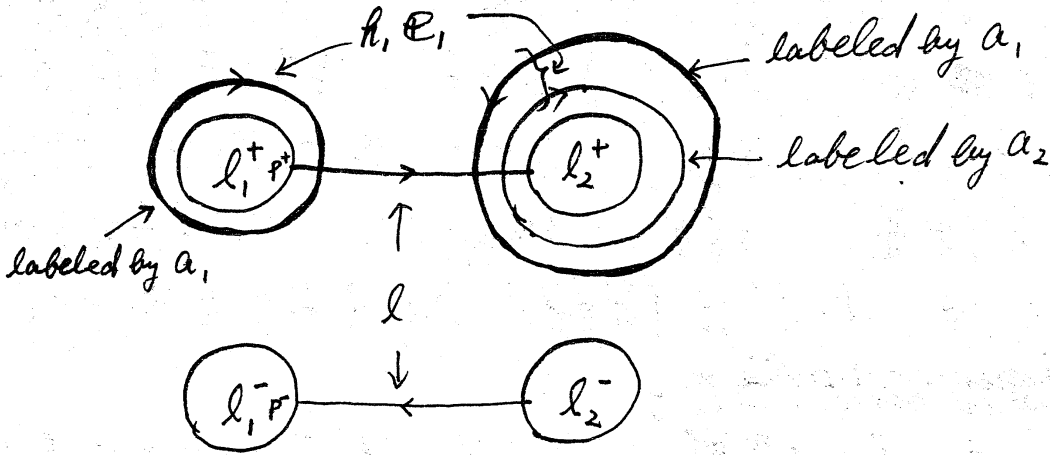


Fig. 7

このとき,  $W(l, h_1, \mathcal{E}_1) = W_1, W_2$  において,  $W_1 = a_1, W_2 = a_1, a_2$  で, oriented  $F$ -diagram  $h_1, F_1 = (\partial T; h_1, \mathcal{E}_1, h_1, C_2)$  は補題の条件(2), (3)を満たす。もし,  $\pi(F_1) (\equiv \pi(h_1, F_1))$  が cyclically reduced ならば, この  $F_1$  が求める  $F$  である。  $\pi(F_1)$  は not cyclically reduced とする。これは, 補題の条件(1)だから,  $h_1, F_1$  に補題が適用できる。ここで, 補題に関して次の二点に注意しておこう。

i) Type II の場合, 新しく得られた  $F$ -diagram  $(\partial T; f \oplus_k, f \subset)$  は, 再び条件 (2), (3) を満たす, (従って, 更に, 条件 (1) を満たせば, 補題が, 又, 適用できる.)

ii) Type II に引き続いて Type I を適用される場合,  $W(l)$  を変えない. すなわち,  $W(l, \mathbb{Q}) \equiv W(l, f \oplus_{k'})$ ,  $\cong \cong$ ,  $\mathbb{Q} \rightarrow \mathbb{Q}_1 \rightarrow \dots \rightarrow \mathbb{Q}_k$  (Type II),  $f \oplus_k \rightarrow f \oplus_{k+1} \rightarrow \dots \rightarrow f \oplus_{k'}$  (Type I), 又,  $f, f'$  は補題における向きを保つ  $\partial T$  の homeomorphism.

よって, 補題を繰り返して適用することにより, 求める  $F$  をうる.

## [2]. 定理 2 の証明

$D$  を  $S^3$  の (oriented) genus 2 Heegaard diagram で,  $\hat{\pi}(D) \cong \langle a_1, a_2; a_1, a_2 \rangle$  とする. 前命題より, oriented  $F$ -diagram  $F = (\partial T; \mathbb{Q}, \mathbb{Q}_2)$  で次を満たすものをうる:

- 1)  $\pi(F)$  は cyclically reduced
- 2) ある  $\partial T$  上の向きを保つ homeomorphism  $h$  に対し,

i)  $\mathcal{R}F$  は補題の条件(2), (3)を満すか

又は, ii)  $\mathcal{R}F = (\partial T; \{l_1, l_2\}, \mathcal{R}C_2)$

である。又,  $\widehat{\pi}(D) \equiv \pi(F)$  である。今,  $\mathcal{R}F$  に associated な Heegaard diagram  $D_1 = (\partial T; \mathcal{A}, \mathcal{R}C_2)$  ( $\mathcal{A} = \{l_1, l_2\}$ ) を考える。

Case 1.  $D_1$  が trivial, (ie.  $c(D_1) = |\mathcal{A} \cap \mathcal{R}C_2| = 2$ ) のとき。  $\pi(D)$  は  $\langle a_1, a_2; a_1, a_2 \rangle$  より, 2) の ii) (上記) の場合は生じない。従って, 2) の i) の場合である。よって, ある向きを保つ  $\partial T$  上の homeomorphism  $f$  により,  $f\mathcal{R}F$  は下図のようになる。

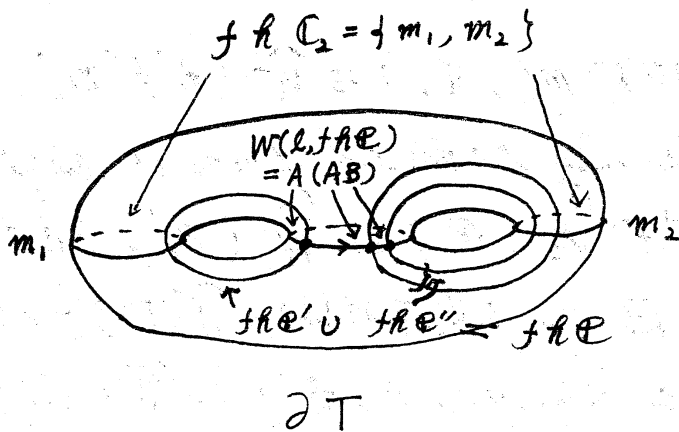


Fig. 8

従って,  $\widehat{\pi}(D) = \langle a_1, a_2; \widehat{r}_1, \widehat{r}_2 \rangle$  は  $\{A, AB\}$  の開ツである。よって, 定理2の

求める Heegaard diagram  $D'$  とし、 $D = (\partial T; \mathcal{C}_1, \mathcal{C}_2)$  における  $\mathcal{C}_2 = (fh)^{-1}fh\mathcal{C}_2 = \{h^{-1}f^{-1}m_1, h^{-1}f^{-1}m_2\}$  の loop  $h^{-1}f^{-1}m_2$  を下図の  $m_2'$  に  $h^{-1}f^{-1}m_2'$  に取り変えたもの  $(\partial T; \mathcal{C}_1, \mathcal{C}_2')$  ( $:= (\partial T; \mathcal{C}_1, \mathcal{C}_2' = \{h^{-1}f^{-1}m_1, h^{-1}f^{-1}m_2'\})$ ) をとればよい。

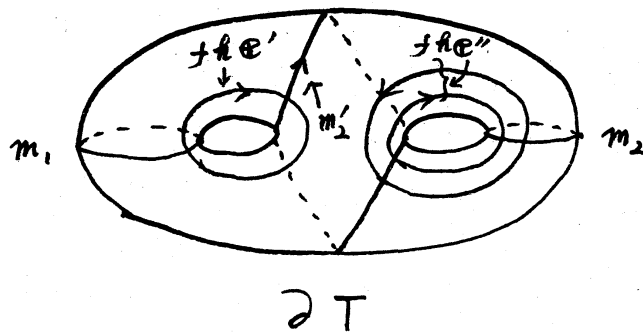


Fig. 9

実際、 $\widehat{W}(h^{-1}f^{-1}m_2, \mathcal{C}_1) \equiv \widehat{W}(h^{-1}f^{-1}m_2', \mathcal{C})$   
 (なぜなら、cyclically reduced form は surgery 不変.)  
 , 又、 $\widehat{W}(h^{-1}f^{-1}m_2', \mathcal{C}) \equiv \widehat{W}(m_2', fh\mathcal{C}) \equiv$   
 $\widehat{AB^{-1}A^{-1}} \equiv B$  に注意すれば、 $\widehat{\pi}(D) = \langle a_1, a_2; A, AB \rangle \rightarrow \langle a_1, a_2; A, B \rangle \equiv \widehat{\pi}((\partial T; \mathcal{C}_1, \mathcal{C}_2'))$   
 である。

Case 2.  $D_1$  が not trivial の場合。

Wave Theorem [4] により、 $D_1$  は wave  $\alpha$  を持つ。(wave の定義は、[13] 参照。) 以下、 $\alpha$

のタイプにより二つの場合に分けて考える。

a)  $\alpha$  が  $\mathbb{C}_2$  に対する wave のとき。

ある向きを保つ  $T$  上の homeomorphism  $f$  に対して、 $f$  は  $F$  は下図のようになる。

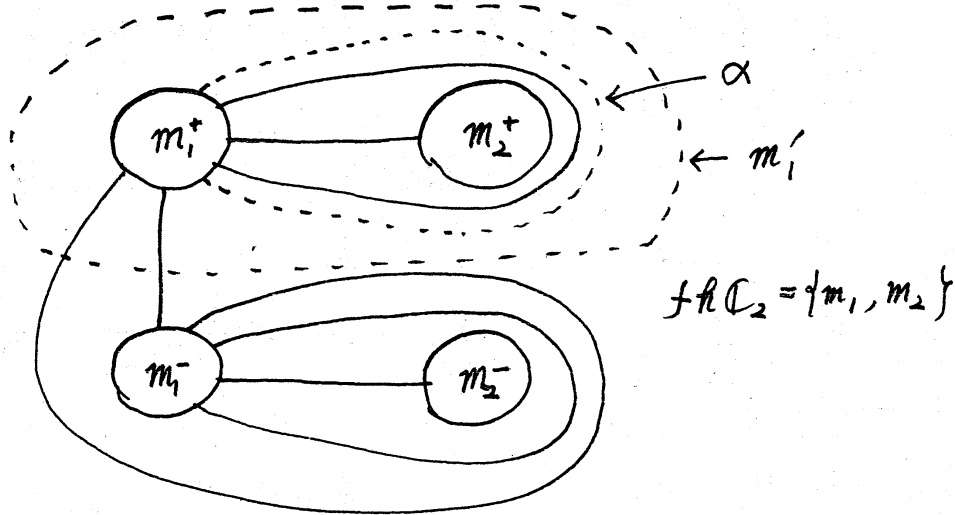


Fig. 10

$f(C_2) \ni m_1$  (上図) を  $\alpha$  に沿って surgery して得られる二本の loops のうちの一本  $m_1'$  (上図) は、 $m_2$  に沿った読みによる word を  $m_1$  に沿った読みによる word への substitution を幾何的に実現していることが、上図より容易にわかる。従って、 $\pi(F) \cong \hat{\pi}(D)$  より、定理 2 が示めされた。

b)  $\alpha$  が  $\mathbb{Q}$  に対する wave のとき。このとき、この  $\alpha$  を用いて、 $R\mathbb{E}$  の surgeries が補題の

Type II と同様に行えることに注意すると, 二の *surgeries* により, 新しい *oriented F-diagram*  $F_1 = (\partial T; \mathbb{Q}_1, \mathbb{Q}_2)$  で, 次を満たすものをうる:

- 1)  $\pi(F_1)$  は *cyclically reduced*,
- 2) ある向きを保つ  $\partial T$  上の *homeomorphism*  $h_1$  に対し,

i)  $h_1 F_1$  は 補題の (2), (3) を満たすか, 又は,

ii)  $h_1 F_1 = (\partial T; \mathbb{Q}, h_1 \mathbb{Q}_2)$  である.

従って,  $h_1 F_1$  に associated な Heegaard diagram  $D_2 = (\partial T; \mathbb{Q}, h_1 \mathbb{Q}_2)$  を用いて, これまで  $F$  に対して行った議論を  $F_1$  に同じように適用できる。ここで,  $C(D_2) < C(D_1)$  (即ち,  $C(\ )$  は Heegaard diagram の *complexity*, i.e. 総交点数) であることに注意すれば, この大り方を (多々くても  $C(D_2)$  回) 繰り返すことにより, Case 2 の  $\beta$ ) は Case 1, 又は Case 2 の  $\alpha$ ) に帰着される。よって, 定理 2 が証明された。

## References

- [1] J. S. Birman, Heegaard splittings, diagrams and sewings for closed, orientable 3-manifolds, lecture notes for CBMS conference at Blacksburg, Va., Oct. 8-12, 1977.
- [2] ——— and H. M. Hilden, Heegaard splittings of branched coverings of  $S^3$ , *Trans. A. M. S.* 213 (1975), 315-352.
- [3] ——— and J. M. Montesinos, On minimal Heegaard splittings, *Michigan Math.* 27 (1980), 49-57.
- [4] T. Homma, M. Ochiai and M. Takahashi, An algorithm for recognizing  $S^3$  in 3-manifolds with Heegaard splittings of genus two, *Osaka J. Math.* 17 (1980), 625-648.
- [5] T. Kaneto,  $S^3$  の Heegaard 分解に於ける  $\pi_1$  の表示について, *数理研講究録* 297 (1977), 69-84
- [6] ———,  $S^3$  の種数2の Heegaard



diagrams に対応する基本群の表示について,  
 数理研講究録 369 (1979), 144-163.

- [7] ———, On presentations of the fundamental group of the 3-sphere associated with Heegaard diagrams, *J. Math. Soc. Japan* 33 (1981), 147-158.
- [8] ———, On Heegaard diagrams of  $S^3$ ,  
 数理研講究録 417 (1981), 9-27.
- [9] ———, On genus 2 Heegaard diagrams for the 3-sphere, preprint.
- [10] ———, On simple loops on a solid torus of general genus, preprint.
- [11] E.S. Rapaport, On free groups and their automorphisms, *Acta Math.* 99 (1958), 139-163.
- [12] M. Takahashi, An alternative proof of Birman-Hilden-Viro's theorem, *Tsukuba J. Math.* 2 (1978), 27-34.
- [13] I.A. Volodin, V.E. Kuznetsov and A.T. Fomenko, The problem of discriminating algorithmically the standard

- three-dimensional sphere, Russian Math. Survey 29:5 (1974), 71-172.
- [14] J. H. C. Whitehead, On certain sets of elements in a free group, Proc. London Math. Soc. 41 (1936), 48-56.
- [15] H. Zieschang, On simple systems of paths on complete pretzels, A.M.S. Transl. (2) 92 (1970), 127-137.